

中野区教育委員会会議録 平成21年第1回定例会

○開会日 平成21年1月9日(金)

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午前 10時00分

○閉 会 午前 10時51分

○出席委員(5名)

中野区教育委員会委員長	高 木 明 郎
中野区教育委員会委員長職務代理	大 島 やよい
中野区教育委員会委員	飛鳥馬 健 次
中野区教育委員会委員	山 田 正 興
中野区教育委員会教育長	菅 野 泰 一

○欠席委員(0名)

○出席した事務局職員(5名)

教育委員会事務局次長	竹 内 沖 司
教育経営担当課長	小谷松 弘 市
学校再編担当課長	青 山 敬一郎
学校教育担当課長	寺 嶋 誠一郎
指導室長	入 野 貴美子
生涯学習担当参事	教育委員会事務局次長兼務
中央図書館長	倉 光 美穂子 (欠席)

○書記

教育経営分野	松 島 和 宏
教育経営分野	渡 邊 真理子

○会議録署名委員

委員長	高 木 明 郎
教育長	菅 野 泰 一

○傍聴者数 2人

〔報告事項〕

(1) 委員長、委員、教育長報告事項

- ・ 12 / 12 啓明小学校研究発表会について
- ・ 12 / 12 中野区中学生意見発表会について
- ・ 12 / 14 中野区珠算教育振興会「中野区珠算競技大会」について
- ・ 12 / 15 中野区医師会「インフルエンザ対策講演会」について
- ・ 12 / 16 北原小学校研究発表会について
- ・ 12 / 19 野方小学校訪問と北部地域小学校長との意見交換会について
- ・ 12 / 20 中野区立中学校PTA連合会バレーボール大会について
- ・ 12 / 20 沼袋小学校「コミュニティコンサート2008」について
- ・ 12 / 21 中野区立小学校PTA連合会バレーボール大会について
- ・ 12 / 21 厚生労働省「麻しん・ポリオ会議」について
- ・ 1 / 1 教育委員会事務局幹部職員の人事異動について
- ・ 1 / 8 東京都医師会学校医会「アレルギーを有する児童・生徒の対応」について
- ・ PTAだより及び学校だよりについて
- ・ 平成21年度当初予算編成について
- ・ 区立小学校副校長の逝去について

(2) 事務局報告事項

(なし)

〔協議事項〕

- ①平成21年度中野区立学校教育の指導目標(案)について

午前10時00分開会

高木委員長

明けましておめでとうございます。

ただいまから、教育委員会第1回定例会を開会いたします。

本日、倉光中央図書館長は所用のため欠席でございます。

本日の会議録署名委員は、教育長にお願いいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

それでは、日程に入ります。

<報告事項>

高木委員長

今日は、議決案件はございませんので、初めに報告事項です。

<委員長、委員、教育長報告事項>

高木委員長

それでは、委員長、委員、教育長報告です。

まずは私から。

12月16日火曜日午後、北原小学校で行われました研究発表会に参加してきました。北原小学校は、平成19年、20年と、中野区教育委員会「特色ある学校づくり」重点校に指定され、「伸ばそう 見つける力 考える力 伝える力」ということで、国語科を中心に、読む活動を通して研究を重ねてまいりました。午後一番で公開授業を見させていただいて、平日だったのですが、保護者の方が多数参加されていて、この地域の意識の高さを非常に感じました。その後、日常の取り組みについてビデオ上映を見た後、研究発表会。通常、小・中学校の研究発表会へ行きますと、「淡々と」と言うのは語弊がありますが、発表される場合が多いのですが、北原小学校では、校長先生のお考えで、すきっと寸劇風の、保護者の方にわかりやすい発表ということで、低学年では模擬授業の様子、先生が子ども役になって研究授業をやる形ですとか、あと、研究発表会の準備の会議の様子などを寸劇仕立てでやりまして、非常にわかりやすくよかったですと思います。その後、国立音楽大学教授の先生、野方土曜スクール代表の先生、校長先生の3人の、小学校の教育に係るいろいろな議題についてのシンポジウムをお聞きして、大変参考になりました。

ちょうどその16日の朝日新聞の朝刊で、国語力をアップすると学力全般が上がるという記事がありまして、非常にタイムリーだなと。文科省が行った小6、中3を対象にした全国学力調査について、いろいろ議論があるところなのですが、国語が向上したところでは関連して数学等々も上がっているというのが出ていますので、一番基礎になる国語力の向上というのが大切なのだと感じた次第でございます。

その週の19日金曜日は、教育委員会として野方小学校を訪問いたしました。午前中は授業の見学、お昼は子どもたちと給食を食べて、午後は校長先生との意見交換会でございます。私、自転車でいったので、ほかの委員より10分ぐらい早く着きましたので、校長先生とちょっとお話をしていたのですが、その中で、野方小学校と沼袋小学校の統合の話がまず出まして、野方小学校としては円滑な統合に向けていろいろな準備をやられていると。課外活動、ミニバスケットですとか、ブラスバンドを合同でやったり、あと、PTA同士の懇談会、それから、野方小学校の学校評議員に沼袋小の地区の人を入れる等々して融和を図っていると。法務省の跡地の関係で計画を変更したところなのですが、地域の方と一緒に、円滑な統合に向けて非常に努力をされていることをお聞きしました。また、教育内容の充実ということで、教師の指導力の向上、あと、学級・学年の向上ということが一番、学校経営の中で課題を置いてやっているという話をお聞きしました。ただ、いわゆる2007

年問題で、現在いる先生 18 人のうち半数が採用から 5 年未満、中には初任を含むということで、非常に厳しいと。初任の先生は初任の先生で大変いいところがあるのですが、やはりペアを組む同じ学年でベテランの先生がいれば、そこでいろいろ指導してうまくいくのですけれども、半数が初任やそれに近い先生ということになると、非常に苦しいと。ただ、先生とお話ししている中で、これからもっと苦しくなるので頑張りましょうというお話をしました。

野方小については以上でございます。

それから、翌日、20 日土曜日の午後、沼袋小学校の体育館で開かれましたコミュニティコンサート 2008 というのに出席してきました。これは、主催が沼袋小学校サポーター連絡会ということで、今、教育委員会で進めている学校支援ボランティアのような組織づくりを沼袋小学校はもう 2 年前からやっておるのですが、その主催で行われたところでございます。1 時半スタートで、実は着いたときは会場がまばらでして、体育館に十数人しかいなくて、どうなってしまうのかなと思ったのですが、最初、沼袋小学校の子どもやOBが入っている沼袋囃子連のおはやしから始まりまして、次が地元のこぼと幼稚園さんのお遊戯というか歌ですね。ここで子どもたちがたくさん入ってきまして、保護者の方もたくさん入ってきて大分盛り上がりまして。その後、手話リズムダンス協会の手話ダンスですね。私が学生と一緒にボランティア活動をやっておりますいずみ教室、知的障害がある方の生涯学習の学級生の方も 2 名ぐらい参加してまして、「元気ですか」みたいな話をして、そこで小学校のほかの観客の方と交流をしたり。

休憩を挟みまして、今度は、沼袋小学校、丸山小学校、野方小学校、3 校統合ということなのですが、丸山小学校の P T A のコーラス、続いて野方小学校の P T A のコーラス、それから緑野中学校の吹奏楽部。ここで、こぼと幼稚園、小学校、中学校と、幼稚園から中学校まで地域の子どもが一堂に会するようなイベントになりました。

その後、野方小学校の吹奏楽、それから沼袋小の金管バンド、最後に、野方小と沼袋小のブラスバンドが合同でやって終わりということで、予定は 3 時半だったのですが、盛りだくさんで、4 時まで。最後はかなり盛り上がりまして、出演者も含めると延べ 1,000 人が集まるという、非常に。最初はちょっとどうなってしまうのかなと思ったのですが、いいイベントになりました。最後に、校長先生から「来年はぜひ野方小学校でやりたいですね」みたいな話がありまして、初めての企画ということなのですが、非常によかったです。

私からは以上でございます。

大島委員

私は、12 月 12 日に啓明小学校に行つてまいりました。啓明小学校で研究発表会がありました。「特色ある学校づくり」重点校で、「学びが変わる ふれあいが広がる 教育課程の展開における学校図書館の活用」ということで、学校図書館をテーマにした研究の発表

会です。啓明小学校というのは、ぐりぐら図書館という図書館を持っていることでも有名かと思うのですけれども、とにかく非常に蔵書が充実しているし、図書館を活用した教育をこれまでも非常に熱心にやっているということで有名な小学校でございます。以前にも、『マジック・ツリーハウス』という絵本の作者のオズボーンさんという方が外国から啓明小学校を訪問されて子どもたちと話し合いをしたというのが新聞記事になったりしたこともあったわけです。そういうわけで、図書館を教育というのをテーマにした研究発表で、まず、授業を見ました。その後、体育館で研究発表。それから、『ぐりとぐら』の絵本の作者の先生をお招きして校長先生との対談というプログラムでしたけれども、とにかくお客様の数が多いのでまずびっくりしました。学校じゅう、校舎じゅう、お客様だらけというようなことで、総人数 450 名もいらしたそうです。校長先生も、久しぶりの懐かしい方などがたくさん来てくださって、いろいろあいさつをしたりするのに忙しいというようなことでした。

それで、各学年、いろいろ図書に関する授業をやっていたのですけれども、図書室で語りの会というのを 5 年生の授業でやっていて、びっくりしたことに、昔の民話、『大工と鬼六』『だいふくもち』『舌切り雀』とかもあるのですけれども、こういう民話を子どもが 1 人 1 話、みんなの前で語るのです。普通ですと、本を読むのかなと思いますけれども、読むのではなくて語るのですね。全部暗記していて、それをよどみなく話をするので、まるでその子が考えたのをすらすらと言っているようにすごくスムーズにお話をするので、本当にびっくりしました。まず、よく覚えることができたなど。それから、スムーズに話を進めて、みんな堂々とした態度でやっていたので、本当にびっくりいたしました。話の内容もとてもおもしろかったです。これはいいなと思いましたけれども、みんな暗記してやるというのは、すぐにだれでもできるというものでもないと思うので、なかなか大変だと思うのです。

その後で、体育館のほうで研究発表と、先ほど言った、『ぐりとぐら』の作者の先生と校長先生の対談があったのです。『ぐりとぐら』の作者の先生のお話が大変感動的で心にぐっときたのです。先生は戦争中に小学生でいらして、学童疎開も経験した。それで、中学校になって、今度は一転して民主主義の教育受けられたというようなことで、その子どものころのお話。家だけで、「外で余り遊ばないように」と注意されていたという戦時中ですけれども、それでも友達と本の貸し借りをしているいろいろな本を読んだというようなお話とか。

その後、保育士になられて、保育園で子どもたちにいろいろな本を読んであげて楽しませていたということらしいのです。その保育士としての仕事の中で、おもしろい話をする子どもたちが喜んでくれる。それでまた保育園に来てくれるけれども、つまらない話をするとならぬと来てくれないというようなことを体験して、とにかく命をかけて子どもたちを喜ばせたと。死に物狂いで子どもたちを喜ばせていたと。それに命をかけていたと。もちろん文才とかあったのだと思うのですけれども、そこからご自分で話をつくってしまうという

ところまでいかれたと。そういう『ぐりとぐら』誕生の秘話とありますか、裏話なども伺えてすごく感動しました。こういう保育士さんに世話してもらった子どもさんは本当に幸せだったろうなと思ったりして、私は先生に直接お目にかかり、ちょっと言葉も交わさせていただいたことに本当に感激して帰ってまいりました。それが12日です。

12月19日に野方小を訪問いたしました件については、高木委員長のほうからご報告があったとおりです。校長先生との意見交換会では、校長先生からいろいろなご要望が非常にたくさんありました。施設の設備のことから、外国語教育についてどのような対策を講じているのかということから、芝生化のことから、再編のことから、盛りだくさんにいろいろ注文がたまるとして、教育委員会にも頑張ってもらいたいというようなことを口々に話されましたので、私たちも校長先生ともいろいろ話し合いをしたりして、教育内容、施設も含めてよくしていくようにしていかななくてはいけないなというふうに思った次第です。

私からは以上です。

山田委員

随分前なのですが、12月15日に中野区医師会館でインフルエンザの対策の講演会がありました。毎年12月に国立感染症研究所（感染研）情報センターの先生をお招きしての講演会ですけれども、やはり新型インフルエンザについての対策が日本はまださっぱりおこなわれているという現状があるということです。歴史的には、そろそろ新型のインフルエンザが到来してもおかしくない時期に来ていますし、高原病性の鳥インフルエンザの状態から見ても、本当にいつ来るかわからない状況であるということ、危機管理体制をしっかりしていかなければいけないのだろうということ。具体的には水際作戦がどのくらいうまくいくかということですね。海外から帰ってきた方の発熱者の取り扱いがうまく機能するかどうか。それから、もしそういったエピソードのある方で発熱した場合には、保健所等でピックアップをして、その後、しかるべき病院の発熱センターと称する病院のほうに誘導する形になるでしょうという形ですけれども、その水際のところで抑えるような病院は東京都では30万人に一つぐらいの病院を予定しているということですから、中野区でも1カ所程度の開設が予定されるというような話でした。備えあれば憂いなしということですので、最初何ができるかということですが、熱が出た場合になるだけ早目に医療機関に相談するとか、もし海外から帰ってきた場合には保健所等に連絡をとってほしいということではないかなと思います。

それと同時に、最近、せきエチケットというのがいろいろ言われていると思うのですが、学校の中でも、せきエチケットという形で、「せきをしている人はマスクをして登校しましょう」というようなキャンペーンが出ているので、そういったものも一つ大切なことではないか。場合によっては、マスクの備蓄などもできることなので始めたらどうでしょうかということでした。

それと、この1月に入りましてインフルエンザはかなり出ております。A型がほとんど

ですが、大人の方に多いのですけれども、ちょっと困っているのは、典型的に熱が非常に高いという方がそんなに多くないのです。きのうも私の小さな診療所に7人ほどインフルエンザが出ているのですけれども、1日前に38度ぐらいの発熱で、来られたときには37度ぐらいなのですね。ただ、節々が痛くてだるいということで調べましたらA型が出る。症状が軽いと皆さん職場に出ていたり、子どもですと学校に出ていくことになると、集団的に発生するとちょっと怖いというふうに思っております。

それから、また暮れのお話に戻りますけれども、19日は教育委員会として野方小学校の訪問をいたしました。統合に向けていろいろ準備を進めているようでございますけれども、校長先生からは、野方小学校で児童の自己評価を行ったというようなお話がございました。「考える子」「優しい子」「元気な子」に対しておのおの評価をしているようでございますけれども、「元気な子」、例えば給食をほとんど残さないで食べるですとか、運動会や学校の体育的行事に意欲的に参加していて、自分ではその辺が大変いいのだというふうに考えているお子さんが70%近くいて、こういったものに意欲的に取り組んでいるということでございました。「考える子」の中では、「見通しを持って意欲的に学習している」とか「学習の約束や態度が身につけている」はもう少し頑張らなければいけないと考えているお子さんが多いようです。また、「優しい子」の中では、「時間を守って次を見通して行動する」とか「相手の気持ちを思いやって発言する」ももうちょっと頑張らなければいけないというような自己評価が出ておりました。

その後、授業を見学させていただいて、昼からは小学校の校長先生とのお話し合いがございました。学校の設備関係の話では、校庭の芝生化については今後もなかなか難しいのではないかとということですが、再編対象で、再編後、学校として利用しない学校についての校庭の利用をもう少し考えていただければいいのではないかと。例えば、可能であればそういったところを芝生化してサッカー場なり利用できればいいのではないかと。というご意見もいただきました。また、バリアフリー化をより一層進めていただきたいと。例えば、副籍で車いす対応の子がいるので、その辺についての対応をしてほしいというようにご要望がございました。

あと、高木委員長の話にありましたように、教員の数が減っている中で、新任の先生もふえてくるということで、今後も、授業力向上に向けてはなかなか厳しい局面があるのだというお話がございました。校長先生から非常に前向きのお話をいただいたと思っております。

12月21日日曜日だったのですが、私、今、厚生労働省の麻疹とポリオの班会議のメンバーに入っておりますので、出席をいたしました。何回も発言していますけれども、麻疹・風疹のイリミネーション、5年間で麻疹を日本の国から廃絶しようという考え方なのですが、3期の中学校1年生、4期の高校3年生相当の接種率がまだまだ思うように上がってこないということで、全国的に見ますと、例えば接種率の高い茨城県とか千葉県な

どでは、学校を使って集団で接種を行っているという、そういった接種機関の場を設けることで接種率を高めているケースがあるのです。東京はそういうことがないので、東京は全国の中でまだまだ低い。たしか暮れには、中野区でも、中学校1年生の保護者の方にご協力をいただいて、「MRの3期は終わりましたか」というアンケートをとっているかと思うのです。あと3カ月ですけれども、3月31日まで医療券が発行されていますので、なるだけ接種率を上げたいと思っております。そのような話し合いがされました。

ことしに入りましては、昨日、東京都医師会の学校医会の会議がございまして、その中では、昨年に文部科学省から出ました「アレルギーを有する子どもたちの学校での対応」について、暮れに、東京都の教育庁のほうからある程度の指針が出たように聞いております。その中で、アレルギーを有するお子さんの保護者から申し出があった場合には、指示にあるように、学校管理の生活指導管理表に基づいた管理が必要になるだろうということで、地区教育委員会と地区医師会と十分話し合いの上、それに対応していただきたいということでした。

また、アレルギーに対する緊急処置としてのエピペンという薬品があるのですけれども、これに対する研修会が、東京都学校保健会が主催して、1月26日、水道橋の研修会場で教職員対象にあるということですから、そこではエピペンを体験できるというお話もありますので、多くの教職員の参加が望まれるというようなことでございます。この件につきましては、今後、医師会と教育委員会といろいろ話をしていかなければいけないのかなというふうに思っております。

私からは以上でございます。

飛鳥馬委員

私も、19日金曜日、野方小学校を訪問してきました。野方小学校で見せていただいたのは、校長先生の学校経営方針というのが先生方によく理解されているなど。そして、実際の子どもと接する教育の場でそれが生かされているか、具体的な手順まで踏まれているのかというようなことが見えるといいますか、そういうことを感じました。

どうということかと申しますと、野方小学校は、共同体的な学びの場をつくりたいとお互いに学び合う学校ということだと思っておりますが、その基本は、コミュニケーション能力だということで、中野の進めていることになるわけです。コミュニケーション能力も、聞くこと、しゃべること、話すことを徹底するというので、各教室に、例えば「聞き上手になろう」と。「あ・い・う・え・お」と書いて、「あ」のところには「相手をよく見て」とか、「い」のところには「一生懸命」とか、「う」は「うなずきながら」とか、ずっと「あ・い・う・え・お」で、子どもはどうしたらいいかということが書いてあるのです。それから、「話し上手になる」というのは「か・き・く・け・こ」なのですね。話すときは、「簡単にまとめて」「聞こえる声で」「口を大きくあけて」「決して急がず」「言葉遣いに気をつけて」。何か私が言われているみたいですがけれども。要するに、そういうふう子どもがど

うしたらいいかということ。そういう成果だと思えるのですけれども、低学年、1年生が非常に集中して聞いているのです。ということを見てきました。

あともう一つは、小学校の英語学習をどうやっているか、外国語活動はどうやっているのかと、行くたびによく気をつけて見ているのですが、5年生と3年生ですか、二つやっていました。5年生のほうは女性の50代の先生で、かなりお上手なベテランの先生で、英語にも堪能な先生が教えていたと思うのですけれども、なかなか活発に子どもたちを引きつけていたと思うのです。3年生の授業がおもしろかったですね。男性の先生で、やはり50代、60代近くなのですか、発音はちょっと心配な方なのですね。子どもが2人、授業のときに黒板の前に出ていました。男の子1人、女の子1人。そして、先生が言うときには、その子どもに発音してもらうのです。それが非常にうまいのです。すばらしくうまい。聞いたら、1人は帰国子女の男の子で、お兄ちゃんは5年生のさっきのクラスにいます。もう1人の女の子はイギリスの現地校にいる子なのですが、たまたま冬休みで来て、1週間とか2週間の短期間、学習のために野方小学校に入っているわけですね。そういう子なので、発音が本当にすごいネイティブですね。こういう子がいるといいなということを見せてもらいました。どこの学校にも外国の子がいますので、いろいろな形で子どもたちが活動できる、国際理解教育にもつながると思いますので、そういう活動もすばらしいなと思いました。

それから、「丘の上」というPTAだよりをもらったのですが、すばらしいなと思ったのは、これに「教職員への感謝状」と書いてあるのです。学校や先生方のやってくれているいいことを。「毎日、学級通信を出してくれて、子どものことを書いてくれてありがとう」「休み時間、放課後、一緒に遊んでくれたり、やさしい声をかけてくれてありがとう」とか、「日記をつけると、いつも丁寧に見直してくれてありがとう」というようなことがいっぱい書いてあるのです。先生方はいろいろやっているのですが、保護者みんなにわかるような形で、「先生方はこういうふうに行っているのですよ」と言ってくれる機会が少ないのです。私の現場の経験から言うと。「やっていますよ」となかなか自分では言えないものですから、こういうふうにはPTAの方が見ていただくと、先生方もやる気になるし、「ああ、やっているんだな」ということがわかってもらえるし、すばらしいなと。ほかでも、新井小学校か何かでちょっと見たような気がしますが、PTAの目のつけどころがすばらしいなということ、感謝したいなと思いました。

ちょっと長くなって申しわけないのですが、さきほどから統合の話が出ていますが、「校長室だより」だと思えるのですが、校長先生が「校長室の窓から」というのを出版されていて、統合のことをきちっと伝えられなかったのだけれども、12月1日に23号というのを保護者にみんな配りましたということで、「今後の学校統合とことしの学校評価に向けて」というお願いも入っているのですけれども、これを見ますと、保護者の方が『今13学級なので18学級になると学校が狭くなるのではないかと、いろいろ心配されている

ことがある」というふうを書いてあるのです。それは、「統合によってそんなに手狭ではないですよ」というようなことをきちっと書いているのです。「今、特別備蓄倉庫になっているようなところをあけて、それをきちっと教室にすることができますし、学童クラブとかのびのび教室は今教育委員会で考えている」とか。それから、「沼袋小学校から来る児童は大体 100 人から 120 人前後だと思われるので、その子どもたちが来てくれると各学年 3 学級になる。3 学級になるということは、30 人から 33 人ぐらいの学級編成ができる。だから、今までのように、ことしは 2 学級なのかな、3 学級になるのかななどと冷や冷やしなくても、ある程度教育計画もできて、子どもたちの数もある程度そろってくるので、むしろ指導しやすい気がする」というようなことを書いてあるのです。ですから、「現校舎で統合するに際して窮屈感とか手狭感という点では心配要らないと思います」などということが書いてある。これを見ても、いろいろな意見をお持ちの保護者の方、地域の方はいらっしゃると思うけれども、私たちも地域からいろいろ言われていることというのは、説明が不十分であったとか、なかなか理解が得られていないということがありますので、こういう細かいことでもきちっと早目に情報を出してお話をしていくことが理解を得る大事なことかなと思ったので、ちょっと発言させていただきました。

以上です。

教育長

1 月 1 日付で、生涯学習担当参事の村木誠が会計管理者に異動いたしまして、竹内教育委員会事務局次長が生涯学習担当参事を兼務することになりました。これは、会計管理者でありました職員が 12 月 31 日付で退職したためにとった措置でありまして、結果として、次長が兼務ということになりましたので、我々教育委員会事務局としては大変厳しい状況になっております。4 月には解消するというふうには思っておりますけれども、それまでの間、何とか職員が一致協力して乗り切っていかなければならないと思っております。何かとさまざまな面で影響が出てくると思えます。委員の皆様方にもその辺をご理解いただきまして、ある場面ではご協力いただくというようなこともお願いしたいと思っております。

それから、昨年 12 月 16 日、桃花小学校の上田悦子副校長先生が交通事故に遭われ、18 日にお亡くなりになりました。48 歳とまだ非常にお若くて、将来が嘱望され、優秀な方でしたので、我々としては大変残念に思っております。ご冥福をお祈りしたいと思います。

それから、年末年始にかけまして、来年度予算の区長査定が行われました。おおむね、内容については固まりつつあります。来週から庁内を中心にいろいろ調整をしなければならぬので、おおむね固まったものの内容で調整を行いまして、これが正式に原案として発表するという場がありますけれども、2 月 5 日にプレス発表が行われます。したがって、今、詳しいこととお話することはできないのですけれども、状況といたしまして、大変厳しいということは間違いございませんので、その辺はお話ししていいと思うのです。

が、ご存じのように、昨年の後半から世界同時不況というような形で、製造業だけでなくすべての産業で影響を受けておりまして、法人税を中心に非常に減収が見込まれています。特に東京都で課税している法人二税というのがありまして、法人事業税と法人区民税・都民税なのですけれども、そのうちの法人区民税が23区に配分されるのですが、こちらの落ち込みが非常に大きくて、その原資であります財調交付金という中野区に来るものが大変落ち込む予定であります。例年9月に財政フレームを立てるのですけれども、その当時の見込みよりも大幅に、二十数億円から30億円程度落ち込むという見込みでありまして、当初予定していた、来年度予算はこのぐらいになるだろうというような姿は非常に難しく、かなり緊縮予算にせざるを得ないというような状況になっております。21年度に実施する予定だった事業の先送りとか縮小。教育委員会でもいろいろ新規とか拡充事業を要求しておりますけれども、それもなかなか厳しい状況であります。そんなことで、またプレス後に発表されますし、委員の皆様にはその前にお話しいたしますけれども、内容について大変厳しいということについてお知らせいたします。

それから、4点目ですけれども、行事等への出席について重複のないようお話しさせていただきます。

12月13日に中学生の意見発表会がございました。これは例年、区立、私立、すべての中学校から1名ずつ代表が出て発表するものでございまして、警察のほうの主催というような形でやっておりますけれども、明大中野の講堂で実施されております。こういうのに出ますと、私立の子がかなりうまいという感じがするのですけれども、この間はそんなことは全くございまして、私どもの公立の中学校の子も非常に上手で、大変すばらしい発表が行われました。

翌12月14日ですけれども、中野区珠算連盟が主催しております中野区珠算競技大会がございまして、そちらのほうに出席いたしました。珠算を習う、そろばんを習う子がちょっとふえているというお話なのですね。珠算大会でメインというか、一番すごいと思うのはフラッシュ暗算というものでして、画面にぱっぱっぱと数字が出るのですが、それを全部足して幾らと答える。それが物すごく速い。それも3けた、4けたとか、それを10ぐらいぱっぱっぱと出して行って、それが幾つかと答えるのです。人間というのはそこまでいくのだというようなことで毎年大変感心しているのですけれども、ことしも感心させられました。

それから、12月20日、中学校PTA連合会のバレーボール大会、翌12月21日には、小学校PTA連合会のバレーボール大会がございまして、そちらにも出席させていただいております。

私からは以上です。

高木委員長

それぞれの委員からの報告につきまして、質問、ご発言がありますでしょうか。

大島委員

感想なのですけれども、高木委員長がご報告された、12月20日の沼袋小学校でのコミュニティコンサートというのが初めての試みでというご紹介、大変いいなと思いました。地域の幼稚園、小学校、中学校の子どもたちがいろいろ披露する。親や保護者も一緒になってそれを楽しむ。地域の結束もまたそこで出てきますし、それこそ、ことしの教育の重点に挙げようという「異校種間の連携」というのがありますね。そういう意味からも、地域で小・中、幼稚園も含めて連携というのも生まれるし、すごくいい試みだなと思いました。1,000人もお集まりになったというのはすばらしいと思うので、また、ほかの学校とか、ほかの地域でもこういうものをされるといいなというふうにすごく感じたという感想でございます。

高木委員長

武蔵台小学校さんとか、個々に地域と連携しているというのはほかにも例があるのかなと思うのですが、統合ということもあると思うのですけれども、丸山小学校ですとか野方小学校と一緒にやってそこでやるということで非常にいいなと思いました。ただ、終わった後の反省会では「ちょっと長かったね」とか。あと、入れかわり立ちかわりなので、延べ1,000人はいるのですが、ずっとじっと座って見ている人というのは実はそんなに多くないので、例えば、こばと幼稚園が出ると、お母様はそのときはいるのですけれども、終わるといなくなってしまうのですね。そこら辺ちょっと課題はあるなど。第1回ということですので、非常におもしろい取り組みだなと私も思ったところでございます。

ほかに質問がないようでしたら、事務局報告に移ります。

<事務局報告事項>

高木委員長

事務局からの報告はございますでしょうか。

事務局からの報告は本日はございませんので、協議事項に移ります。

<協議事項>

高木委員長

「平成21年度中野区立学校教育の指導目標（案）について」、協議を進めます。

本件につきましては、昨年12月12日の第22回定例会において協議をしまして持ち越しになった部分でございますので、その後の変更点を中心にご説明をお願いいたします。

指導室長

過日ご協議いただきましたことを受けて、本日改めて、来年度の区立幼稚園・小学校・中学校が進めます教育活動の柱でございます「指導目標」のご協議をお願いしたいというふうに思っております。

この「指導目標」と言いますのは、学校が教育課程を編成する際のよりどころとするものでありまして、過日のお話では、「柱についてはよろしいけれども」ということで大きく

2点ほどご指摘があったかというふうに思っております。1点は、表現をもう少しわかりやすくしたらどうかということと、(1)にございました「個に応じた指導」と一緒に表現されていましたが「ICT教育」については独立させたほうがいいのではないかという、大きな2点はそれであったかというふうに思っております。

そこで、今お手元にありますように、来年度の重点のところについて、まず(1)としまして、「個に応じたきめ細かな指導を充実する」というだけに簡潔に述べさせていただきました。(2)としては、「異校種間の連携を推進する」ということ、(3)としましては、「ICTを効果的に活用した授業を推進する」ということにさせていただきました。また、他の部分で「学ぶ意欲を向上させ、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等を育成する」という形で表現させていただきました部分でございますけれども、このことにつきましては、新教育課程の新しい学習指導要領の内容を表現した部分ということでございますので、改めてそこもわかりやすく、(4)といたしまして、明確に「新しい学習指導要領への移行を適切に行う」ということで表現させていただきました。

以上でございます。よろしくご協議のほどお願いいたします。

高木委員長

それでは、ご質問、ご発言がありましたら、お願いいたします。

飛鳥馬委員

重点目標のところに四つありますが、そのうち、(2)と(3)のところちょっとお尋ねします。

「異校種間の連携を推進する」、ここ何年間か進めてきていると思うのですが、昨年までどんなことになっているかという現状みたいなものですね。それから、今年度は重点ですので、さらにそれをどの程度までといいますか、目標といいますか、高めたいかというのがあると思うのです。

同じ意味で、ICTの場合も、現場で今どのくらい普及されて活用しているかということですね。それをまた今年度重点としてどの辺までというふうに具体的におありですかということなのです。

この2点です。

指導室長

まず、異校種間の連携ということについては、教科等で部分的に連携をしていただってきております。学校丸ごとの連携というのは、そこまでの土台ができておりませんので、私どもとしましては、教科の内容、ソフト面のほうの連携から入ろうかというふうに思いまして、体育ですとか、マイスターを中心とした教科については、指導計画、それからその指導法等の連携を図る素地をつくってきたというところがございます。ことしにつきましては、さらにもう少しグループ化しまして連携を進めていければなというふうに考えております。それにしても、まず、ソフトをしっかりと決めたところからやっていくべきか

なというふうに思っておりますが、今、連携教育をどのように本区として進めていくかというふうなものについて、いろいろな現状とさまざまな取り組みを参考に本区の考えをまとめているところでございます。それをまた教育委員会のほうでご協議いただいて進めていく方向性もはっきりさせていく段階に入っているかなというふうに思っております。

(3)のICTのほうでございますけれども、今までもICTについてはウエートを置いて、夏季休業中を中心に研修会を相当数やっております、教員としては、本人が使えるという段階においてはほぼ8割、9割の段階に来ておりますが、授業で使えるという段階になりますと、まだまだのところがございます。今回、校内LANが入りますとか、いろいろな設備をしているところがございますので、来年はそういうものを十分に教育活動の中で使えるような研修にウエートを置いて、そういう部分の体制づくりもハード面とソフト面を担当する部署が一緒になってやっていければなというふうに考えております。

高木委員長

私から1点。

今のICTの点なのですが、先ほど教育長から「予算的にかなり厳しい」という話があったのですが、そこら辺もちょっと影響が出そうな形なのでしょうか。ちょっと回答しづらいかもかもしれませんが。

教育長

ICTについては、今年度、ハード的には整備されますので、それをいかに使って効果的にやっていくかということについては、一つは、研修しなければならないですね。それから、さまざまなコンテンツを用意しなければいけない、そんなようなことがあります。どこまでできるかについてはありますけれども、来年度も、予算の範囲内でできる限り。そういうものが全くできないということではなくて、ある程度のきちんとした体制はとっていきたいと、このように考えています。

高木委員長

全校の校内LAN等々に関しては一応大丈夫そうなのですか。ただ、その後の活用していく部分のソフトというのはなかなか予算がつきづらいですよ。そういう部分がまだちょっとブラックというかグレーというか。

教育長

工夫をしなければいけないと思っておりますけれども、まだちょっとわからないのです。一つは、企業の協力が得られるかという問題もあります。それから、研修のやり方も、どのようなやり方でやるかによりましては、予算の中である程度工夫できると思っておりますので、とにかく学校の先生が使いこなせるようにしていくということについてどのようにすればいいかは、もう少し検討しなければならないのもありますので、そういうものも含めまして、来年度きちんと対応して、少しずつ充実していくような方向でやっていきたいと思っております。

高木委員長

コンテンツに関しては、最近結構、無料あるいは著作権フリーのものもありますので、そういうものをなるべく活用するというのと、あと、基本的には自分のクラスの子どもやその学校に合ったものにしないと教育効果が上がりませんので、お金がないから知恵を出すということでもないのですけれども、やはり先生方のスキルアップのほうをきちっとやっていただいて、自分たちで考えていただくという方向なのかなと思っております。

よろしいでしょうか。

山田委員

(4)に「新しい学習指導要領への移行を適切に行う」という文言が入って、より明確になったかと思うのです。今度の改定は、やはり授業数の増加から授業内容の充実ということで、今まで授業時数が減ってきたところが今回は上がったわけですから、これに対しては適切に対応していかないと、23年度の実施に間に合わないだろうということで、非常に適切な文言が入りましたし、(1)と(3)もきちんとわかりやすくなったということで、この重点目標でよろしいのではないかと思います。

大島委員

私も山田委員と同じ意見でございまして、重点を置かなければいけないこととか、大事なこととか、今要請されているという、現時点での課題を上げているという意味で、「新しい学習指導要領」とか「ICT」とか「異校種間の連携」、そういう意味で現状に合った文言ではないかというふうに思います。(1)の従来からの「個に応じた」ということは、もちろんもっと進めていかなければいけないことですし、そんなわけで、この重点の文言は適切ではないかというふうに思っております。

高木委員長

それでは、ただいま協議した内容を含めまして、平成21年度の学校教育の指導目標について承認をしたいと思います。

以上で、本日の日程をすべて終了いたしました。

ここで、傍聴の皆さんに今月の教育委員会の開会予定についてお知らせをいたします。来週1月16日金曜日と再来週1月23日金曜日は、いつもどおり、この場所で午前10時より教育委員会の会議を開会する予定でございます。1月30日金曜日は、地域での教育委員会として、会場を新井地域センターに移して教育委員会を開会する予定でございます。開会時間は、いつもどおり午前10時からでございます。

これをもちまして、教育委員会第1回定例会を閉じます。

午前10時51分閉会